

見つけよう防災の種

第29回を迎える恒例「**グリーンシティ夏祭り**」が今年も開催されます。毎年、多くの方にご参加・ご協力を頂き笑顔満載のお祭りです。防災会名物「イカ焼き・ポテチパン」に餃子や焼きそば・焼き鳥・フランクフルト・生ビール・ジュース・各種ゲーム等々、お楽しみ盛り沢山の夏の大イベントです。



さて、全国の「夏祭り」はいつ頃から始まったのでしょうか？調べるとある新聞記事が目にとまりました。2011年6月23日付の日本経済新聞『**隅田川花火・仙台七夕…夏祭りの起源は災害、鎮魂担う**』と題された記事です。『東日本大震災の影響でお祭りの規模縮小や、中止するケースが相次いでいる』との書き出しになっています。『確かに東日本大震災直後から全国各地で色々な催事を自粛するムードとなっていた。しかし、「祭り」とは単なるイベントではないはずなのだ』と！さらに続いて記者はこのように続けている。『豊作を祝う秋祭りとは異なり夏祭りには死者を供養し災いを鎮める慰霊、鎮魂の意味合いも強い。各地の由来を追った』今回は「夏祭り」について日本経済新聞の記事を元に考えてみます。

◆夜空を彩る隅田川花火大会

毎年100万人近い人出でにぎわう「隅田川花火大会」は江戸時代から昭和までは「両国の川開き」として親しまれてきた。その始まりは享保18年（1733年）で、約20発の花火が打ち上げられた。この前年の享保17年に西日本を中心に「享保の大飢饉」が起こる。さらに江戸でもコレラとみられる疫病が流行、当時の徳川将軍8代吉宗は、前年の飢饉による死者の慰霊と鎮魂を目的で、水神祭を催したのがきっかけとなったようです。



◆京都の祇園祭

7月1日から31日まで1カ月続く祇園祭。始まりとされるのは平安朝の御霊会で、最初に朝廷が催したのは貞観5年（863年）。貞観時代は各地で地震、噴火、疫病の流行などが相次いだ。当時は、恨みを抱いたまま不慮の死を遂げた人々の、霊の仕業と考える怨霊信仰が一般にも流布していた。貞観の御霊会では、祟りを鎮めるため早良親王らの霊を供養し、にぎやかな舞や音曲で慰めたという。東日本大震災と類似するとされる貞観地震。津波が起こった貞観11年（869年）の御霊会では祇園社（八坂神社）から神輿を送って疫病退散を祈願したという記録が「祇園社本縁録」にある。これが現在の祇園祭の始まり。祭りの主体が町衆に移り、現在のハイライト山鉾巡行に近い形ができあがるのが室町時代とのことです。



◆仙台七夕も大飢饉と関係

先祖をまつる「盆」の行事にみるように夏は鎮魂の季節。リズムカルで面白い「阿波踊り」も死者を供養する盆踊りが起源。毎年200万人以上が訪れるとされる「仙台七夕まつり」は伊達政宗が奨励し、天明3年（1783年）に天明の大飢饉を乗り切るため盛大に行われ、華やかに催すことでより大きな鎮魂の力が得られるとする考えがあったようだ。『夏祭り』は、なにがしかの事象が元となり企画され開催、そして年々継続されているようです。



このグリーンシティ夏祭りも元となることがあります。それは「この町にコミュニティ（繋がり・絆）をつくろう」と考えたのです。日々の挨拶や会話を通して、人と人の繋がりが育まれ強い絆となり、コミュニティでこの町を守ろうと考えられました。これが現在の加古川グリーンシティの防災力にも受け継がれています。

「祭り」は、何をどのようにすれば楽しく盛り上げるのかを考える人がいて、それを実行する人がいて、祭りに遊びに来てくれる人、終了後に片付けも手伝う人等、当日の参加だけではなく、一年を通して関わるすべての人がチームとなり動く。祭りの楽しさは祭り当日だけではなく、関わるすべてのことが楽しさとなり『力』となります。この『力』こそが「コミュニティ力」そのものなのです。そのコミュニティ力を創り上げるためには日々の挨拶が大きな原動力です。ひとり一人の積み重ねが、災害時に爆発的な力を発揮することになります。

でも「災害の為に何かを備える」と考えると、人も集まらず継続することができません。ところが楽しいことが基盤にあると人が集まり継続するのです。そうすると「災害は忘れたころに・・・」となったとしても、即対応可能なチームが地域に存在することとなります。

大自然の身震いから生まれる災害は、手を変え品を変え我々に襲ってきます。同じ災害なんてあり得ない。ならば、その変化にいかに対応できるかの臨機応変防災力を地域の人が持つことで、災害が発生しても、その都度やり過ごせる能力を、個々に手に入れておけば良いのです。その為にも「継続できる何か？」を私たちは考える必要があります。それが「楽しさ力」を持った「祭り」になると最高ですね！きっとそこには、**大きな防災の種が隠されているはず**です！

昨今、何かが起これば「自粛ブーム」となることが多いのはやはり悲しいことです。みんなで暗く沈むことは大間違い。何かが起こったときこそ「楽しさ」を力にみんなで乗り切る！「お互い様の支え合う精神」これが本当の防災力ではないでしょうか。

楽しくなければ防災の輪は広がりません。

みなさんも「**楽しく防災活動をやりましょう！**」

「2011/6/23 日本経済新聞」より一部引用しています。